

ウイルス感染症の疫学調査について

川本 歩・松本 範夫・戎谷 佐知子
伊藤 敏行*・本田 達之助**

1 はじめに

小児におけるウイルスの流行状況を把握するために、本年度もエンテロウイルス、アデノウイルス、インフルエンザウイルスを中心としてウイルス分離を行った。主に上下気道疾患、消化器疾患、熱性疾患からのウイルス分離状況について報告する。

2 材料と方法

調査期間は平成8年4月から平成9年3月である。

材料は県内定点医療機関で採取したサーベイランス対象外疾病の患者1604名の咽頭拭い液、便、尿、髄液など1778検体を用いてウイルス分離を行った。使用した細胞はFL、Vero、RD-18S、MDCK細胞である。

3 結果および考察

表1に採取した患者数、検体数を臨床診断名ごとに示した。もっとも多いのは咽頭炎で受け入れ検体の29.8%を占めている。次いで多いのは気管支炎、肺炎でこれらの上下気道疾患が1124検体で受け入れ検体の63.2%を占めていた。

次にウイルス分離状況を表2に示した。患者1604名中ウイルス分離ができたのは188名(11.7%)であった。分離ウイルスは23種類であった。表3に月別のウイルス分離状況を示した。

以下本年度の特徴的なものについて述べる。

(1) アデノウイルス

アデノ1型、2型、3型、5型、6型、7型、

11型ウイルスが分離された。

アデノ7型ウイルスは、1995年から本邦で流行がみられているが、本県では全国的流行から1年後にはじめて分離した。アデノ7型ウイルスが分離された9名の臨床診断名は咽頭炎2名、扁桃炎2名、口内炎1名、気管支炎1名、肺炎1名、腸重積2名であった。基礎疾患のある小児の感染死亡例も報告されており、今後の流行状況に注意が必要である。

(2) エンテロウイルス

例年に比べ本年度は検出ウイルス数も少なく特定のウイルスの流行はみられなかった。

昨年中部地区で流行したエコー7型ウイルスは本年度は東部地区での流行であった。

またコクサッキーB4型ウイルスが東部中部地区を中心として小流行し上気道炎、急性胃腸炎、無菌性髄膜炎などの疾患から分離された。

(3) インフルエンザウイルス

A香港型ウイルスが12月中旬採取検体から鳥取市ではじめて分離され、1月に小学校などの集団発生が増加した。抗原性は1995/96シーズンと類似しており2月下旬で終息した。

一方B型ウイルスは1月下旬に中部地区で1株分離され、東部地区で2月下旬から継続分離され6月まで分離された。なおB型ウイルスは分離ウイルス総数の76.6%を東部地区で占め、西部地区では全く分離されなかった。

4 まとめ

(1) アデノ7型ウイルスを本県で初めて分離した。

(2) エコー7型ウイルスは2年連続の流行で地区

を変えての小流行であった。

とB型ウイルスの混合流行であった。

(3) インフルエンザウイルスはA香港型ウイルス

表1 疾病別検体採取状況 (1996年度)

1996.4~1997.3

臨床診断名 (疑いを含む)	1996年									1997年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
上気道炎	14	28	10	10	10	10	19	14	21	2	1	1	140
	14	24	10	8	10	9	19	14	21	2	1	1	133
咽頭炎	28	30	34	95	62	23	32	53	48	39	32	54	530
	28	30	32	88	51	22	32	50	45	35	31	53	497
扁桃炎	7	7	9	11	7	11	10	10	3	4	1	12	92
	7	7	9	10	7	11	10	10	3	4	1	12	91
口内炎	5	3		4	6	4	3	3	4		2	6	40
	5	3		4	5	4	3	3	4		2	6	39
発疹症	5	9	5	5	12	3	9	13	7	9	8	10	95
	5	9	5	5	10	3	9	13	5	9	7	9	89
気管支炎	23	15	4	27	11	14	5	15	7	11	33	23	188
	18	15	4	23	11	14	5	13	6	11	33	22	175
肺炎	14	15	10	10	11	7	12	7	10	18	41	19	174
	14	14	10	8	11	7	12	7	10	17	40	19	169
腸重積		2	4	2	2	2	1	3					16
		2	4	2	2	2	1	3					16
熱性痲疹	5	5	1	2	2			2	5		3	4	29
	3	3	1	1	1			2	2		2	2	17
敗血症	3	2		1	3	4					5	4	22
	2	2		1	2	3					2	3	15
仮性クループ	2	4	1	3	3	1	1	2	7	2	2	2	30
	2	4	1	3	2	1	1	1	4	2	2	2	25
その他	10	14	21	14	16	12	37	27	27	6	31	7	222
	9	10	14	10	13	9	30	16	20	4	25	6	166
不明	13	10	13	22	19	10	19	25	6	25	24	14	200
	8	9	12	16	16	8	18	22	6	22	23	12	172
計	129	144	112	206	164	101	148	174	145	116	183	156	1778
	115	132	102	179	141	93	140	154	126	106	169	147	1604

(注) 上段は検体数、下段は患者数を示す。

表2 疾病別ウイルス分離状況 (1996年度)

1996.4~1997.3

臨床診断名 (疑いを含む)	ウ イ ル ス の 種 類																	計						
	ア デ ノ 1 型	ア デ ノ 2 型	ア デ ノ 3 型	ア デ ノ 5 型	ア デ ノ 6 型	ア デ ノ 7 型	ア デ ノ 11 型	イ ン フ ル エ ン ザ A 香 港 型	イ ン フ ル エ ン ザ B 型	エ コ ー 7 型	コ ク サ ツ キ ー A 2 型	コ ク サ ツ キ ー A 5 型	コ ク サ ツ キ ー A 6 型	コ ク サ ツ キ ー B 1 型	コ ク サ ツ キ ー B 2 型	コ ク サ ツ キ ー B 3 型	コ ク サ ツ キ ー B 4 型		コ ク サ ツ キ ー B 5 型	ヘ ル ベ ス 1 型	ポ リ オ 3 型	ム ン プ ス	ロ タ	麻 疹
上気道炎	3 3	2 2	1 1	1 1				2 2			1 1	1 1			2 2	2 2	2 2	2 2						17 17
咽頭炎	4 4	10 10	8 7	1 1		2 2		11 11	8 8	4 4		1 1	1 1	1 1	1 1	5 5	4 4	2 2	1 1					64 63
扁桃炎	3 3	6 6	1 1	2 2	1 1	2 2			1 1							1 1	1 1	1 1						19 19
口内炎						1 1												11 11						12 12
発疹症										1 1							1 1	1 1					1 1	4 4
気管支炎	2 2	3 3	2 2	1 1		1 1		6 6	1 1															16 16
肺炎	1 1		1 1			1 1		9 9	3 3									1 1						16 16
腸重積					1 1	2 2																		3 3
熱性痲瘵	1 1							1 1																2 2
敗血症			1 1						1 1													1 1		3 3
不明熱																		1 1						1 1
仮性クローブ				2 1																				2 1
その他	1 1			1 1				1 1								1 1	1 1	1 1			5 5	1 1		12 12
不明	1 1	1 1	1 1					6 6	3 2							3 3						5 5		20 19
計	16 16	22 22	15 14	8 7	2 2	9 9	1 1	35 35	14 14	8 7	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	3 3	12 12	3 3	22 22	2 2	6 6	7 7	1 1	191 188

(注) 上段は検体数、下段は患者数を示す。

